

2017年9月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要旨

2017年8月1日に開催した第3四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト・報道関係者向け）における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

Q 1. GANMA!の今後のプロモーション方針について

A 1. 8月は当社にとって繁忙期と位置付けているため一定額のプロモーションを実施する予定だが、それ以外では、現状において2Qにておこなったオフラインでの大型プロモーションを上回る規模の広告費投下は計画していない。

Q 2. GANMA!のPV数とDL数及び収益におけるトレンドについて

A 2. PV数とDL数の推移については2Qで実施した大型プロモーション後に想定を上回り大きく伸びているが、それ以外では概ね当社の想定通りに推移している。収益という面でも順調に推移をしている。メディア事業の特性として季節要因は存在しており、2Qは広告出稿における繁忙期、3Qは閑散期であることがQ毎の収益トレンドにも多少は表れている。業績予想で開示している通り4QにおいてはGANMA!を含めメディアコンテンツ事業は前年同期比で約2倍の増収を、前四半期比でも順調な成長を見込んでいる。

Q 3. GANMA!のMAU、WAU、DAU等の動向について

A 3. MAU、WAU、DAUはそれぞれ順調に増加を続けている。これまでの事業運営においてこれらのKPIを引き上げるための施策については一定の効果を得て勘所を掴めているため、今後それぞれに適したアプローチを続け、更にユーザーのアクティブ率を引き上げる施策を推進していく。

Q 4. ネットマーケティング事業における足元の状況について

A 4. 3Qは大型案件の縮小があったが、足元ではその縮小トレンドの一巡が見え始めた状況である。主に大きく下げたのはPCや検索連動型広告といった領域であり、これらは利益率が低いため、結果的に現状では取扱高に対する収益性が高まっている。直近の状況ではトップラインに反転の兆しが確認できているため、既存案件の縮小が一巡し、新規案件の獲得による果実を得る段階に徐々に向かっていると認識している。

Q 5. Uni Marketing の今後の収益貢献について

A 5. 本取り組みについては直近に開始したばかりであるため、収益貢献を期待できる具体的な時期を申し上げる段階にはない。これまでの当社における中国市場の位置づけとしては、中国顧客の海外出稿支援を中心としており、中国のインターネットユーザーに向けた日本の広告主によるブランド構築や出稿支援は事業のスコープに含めていなかった背景がある。今回アリババグループによる本プロダクトについては優れたポテンシャルがあると判断し、中長期的に大きな取り組みにできるよう連携していく。

以 上